

週間展望 (6/6～6/12)

～ WEEKLY FORECAST ～

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

目次 (2022/6/6号)

■ 目次	・・・ P 2
■ 週間予定：E C B 理事会・米消費者物価指数が注目	・・・ P 3
■ 前週Review：バイデン寄稿文から読み解けること	・・・ P 4
■ ドル円：再度、金利上昇・ドル買い高まる。ユーロにも注意	・・・ P 5
■ 金：200日移動平均線維持	・・・ P 6
■ 白金：J M リポートでは、ロシア産供給示されず	・・・ P 7
■ ゴム：上海のロックダウン解除	・・・ P 8
■ 穀物：コーンは小麦に追従安、大豆は高止まり	・・・ P 9
■ 原油：O P E C 増産も、ロシア減産をカバーできず	・・・ P 10
□ 騰落率（年間・月間・週間）	・・・ P 11
□ 米ガソリン小売価格・米 I S M	・・・ P 11
□ E T F（金・白金）・E I A 原油在庫	・・・ P 12
□ U S D A 生育進捗率・U S D A 作柄	・・・ P 13
□ 週間輸出成約高・O P E C 生産	・・・ P 13
□ C F T C 建玉明細・・・ P 14～15 （ドル円・ユーロドル・NY金・NY白金） （NY原油・NYガソリン・シカゴ大豆・シカゴコーン）	

CX週間展望（6月6日～）

【週間スケジュール(6月6日～6月12日)】

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
			1 ユ ユーロ圏失業率 米 製造業PMI 米 ISM製造業景気指数 カ カナダ中銀政策金利	2 米 ADP雇用者数 米 耐久財受注 米 製造業新規受注 OPECプラス閣僚会議	3 米 雇用統計 米 ISM非製造業景気指数 中 休場（端午節）	4
5	6 中 財新サービスPMI	7 米 貿易収支 豪 豪中銀政策金利	8 日 経常収支 日 貿易収支 日 GDP ユ ユーロ圏GDP 米 卸売り在庫 OECD世界経済見通し	9 中 貿易収支 ユ ECB政策金利 OECD閣僚会議（～10日） UNCTAD世界投資報告	10 中 消費者物価指数 中 生産者物価指数 米 消費者物価指数 米 ミシガン大学消費者信頼感指数	11
12 第12回WTO閣僚会議（～15日、ジュネーブ）	13 日 景気判断BSI	14 日 設備稼働率 日 鉱工業生産 ユ ユーロ圏鉱工業生産指数 米 生産者物価指数 米 FOMC（～15日）	15 日 機械受注 中 鉱工業生産 中 小売売上高 米 小売売上高 米 NY連銀製造業景気指数 米 FRB政策金利 米 対米証券投資	16 英 英中銀政策金利 米 フィラデルフィア連銀景況指数 米 住宅建築許可件数 米 住宅着工件数	17 日 日銀政策金利 米 鉱工業生産指数 米 設備稼働率	18
19	20	21 米 中古住宅販売	22 英 消費者物価指数 英 生産者物価指数	23 米 経常収支 米 製造業・サービス・総合PMI EU首脳会議（～24日）	24 日 全国消費者物価指数 米 新築住宅販売戸数 米 ミシガン大学消費者信頼感指数	25
26 G7首脳会議（～28日、ドイツ・エルマウ）	27 米 耐久財受注 米 中古住宅販売成約件数	28 米 卸売在庫 米 S&Pケースシラー20 米 CB消費者信頼感指数	29 米 実質GDP NATO首脳会議（～30日、スペイン・マドリード）	30 米 PCEコアデフレーター 米 シカゴ購買部協会PMI WTO紛争解決期間会合	月内 日本 骨太方針の閣議決定予定	

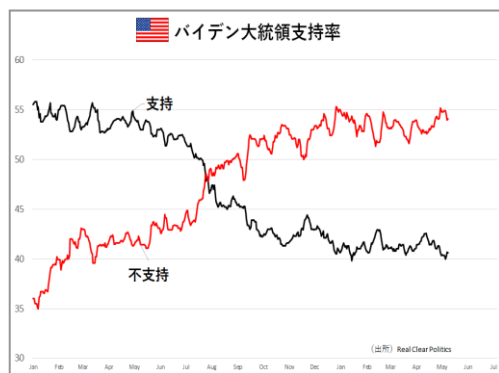
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

前週レビュー

～バイデン寄稿文から読み解けること～

調査課

菊川 弘之



中間選挙年5月支持率

クリントン(1994年)	51%
ブッシュ(2002年)	77%
オバマ(2010年)	48%
トランプ(2018年)	42%
バイデン(2022年)	41%

※ロイター／イプソス米世論調査

【バイデン寄稿文】

バイデン大統領は5月31日付の米紙ニューヨーク・タイムズ(電子版)に寄稿した。

寄稿のポイントは以下の通り。

- 米国の目標は、ウクライナが更なる侵略を抑止・自衛する手段を持ち、民主的で、独立し、繁栄した国となしてほしい。
- この戦争は、**外交を通じてのみ終結**する。交渉の席でウクライナが有利になるよう高性能ロケット砲システムの新たな供与などを決めた。
- 米国は**プーチン大統領をモスクワから追放する意図はない**。
- ロシアに苦痛を与える為だけに、戦争を長引かせることはしない。
- ウクライナ政府に、領土の譲歩を迫ることはしない。
- いかなる核兵器の使用も容認できない。深刻な結果をもたらす。
- **ロシアと北大西洋条約機構(NATO)の間の戦争は求めない**。

民主・共和両サイドから停戦提案

バイデン大統領は、3月下旬のワルシャワでの演説で、「この男(プーチン大統領)が、権力の座にとどまってはならない」と非難。「体制転換」を求めたとも受け取れる発言に、交渉ルートを閉ざしかねないと危惧する声も上がっていたが、5月27日付けレポート「停戦のタイミングか？」で指摘したように、キッシンジャー元米国務長官発言や、ニューヨーク・タイムズ社説などを受けて、停戦の方向へ舵を切り替えた可能性もある感触だ。

米世論調査によると、バイデン大統領の支持率は、8月以降50%割れが続いている。米国民の関心は、ウクライナよりも、足元のインフレであり、バイデン政権の現行政策に関して不満は高い。(P11下段右図:ガソリン小売価格参照)

米国はウクライナへ高機動ロケット砲システムの供与を発表したが、射程が短いものを引き渡すことを決め、実際に引き渡し・運用(訓練・メンテナンス)できるまでには、1ヶ月以上かかる見通し。プーチン大統領は、長距離攻撃兵器がウクライナに配備された場合、「これまで攻撃対象としてこなかった対象も攻撃する」と警告。配置までの期間に停戦協議が開始されないと、長期化の懸念は残る。

ドル円 (YEN)

～再度、金利上昇・ドル買い高まる～

調査課

菊川 弘之

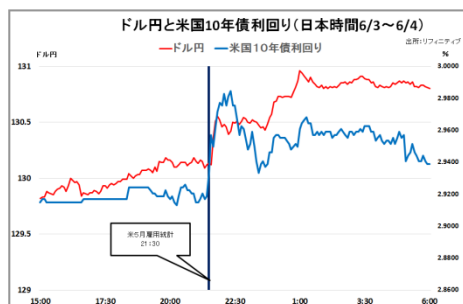


【今週見通し・戦略】

雇用統計は非農業部門の雇用者数の伸びが前月比39万人と4月(43万6000人)から減速したものの、市場予想(32万8000人)は上回った。

雇用統計は強気

平均時給の上昇率は前年同月比5.2%と高い伸びが続き、米連邦準備理事会(FRB)が秋以降も利上げを続けるとの見方が強まった。米長期金利が上昇し、日米金利差拡大を手掛かりに円売り・ドル買いの動きが広がった。



6月からのQT開始に伴う「債券需給悪化・金利上昇」圧力もあり、再び、米金利圧力が高まっている。弱気のADP雇用統計で、一旦、下押したものの、6月3日付「市場分析レポート」で指摘したように、最近ADPと米雇用統計の乖離が続いている。

FOMC議事要旨で、6月、7月のFOMCで0.5%利上げが適切という見通しが示されたことに加え、9月以降のFOMCで利上げについて、経済動向次第で継続や一旦打ち止めなどに転じる可能性が意識されていたが、先週は、米ブレイナードFRB副議長は、今後数回の連邦公開市場委員会(FOMC)で0.5%の利上げを実施することは理にかなうとした上で、9月に利上げをいったん停止する理由は、ほとんどないとの考えを示している。

6月、7月の連続0.5%利上げを実行した場合、9月のFOMCで利上げの可能性が、0.5%か0.25%か、それとも利上げ見送りか、様々な憶測が乱れ飛ぶ時間に向かいそう。対面で行われるジャクソンホール(8月25～27日)が大きなポイントとなる。

ドル円は20日間高値を更新しており、50日間高値(5/9高値)を更新してくると、トレンドフォロー型の追従ドル買いが入りやすい。同水準の攻防が焦点。

ユーロにも注意

今週は、ECB理事会を受けたユーロの動きにも注意。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

金 (GOLD)

～200日移動平均線維持～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

NY金(8月限)は、5月の米雇用統計が強気の数字となり、年後半も断続的に利上げが実施されるとの見方が再燃、米長期金利が上昇、ドル高となり、売り優勢となったが、引け前に下値を切り上げ、200日移動平均線～心理的節目1850ドルを維持。同水準は、価格帯別出来高が厚い支持線。



内外共にネックラインを超えてくると、強気感増す

JPX金は、NY金に先んじて、2日付けの夜間立ち合いで、ネックラインを上抜き、三角もち合い上放れから上げ加速となっている。

週末は雇用統計を受けた金利上昇を嫌気して売られたNY金も、今週には20日間高値が更に切り下がる時間帯となり、CTA(商品投資顧問)が多く採用しているトレンドフォロー型指標が途買いとなる水準も、1900ドル以下まで切り下がってくる。

JPX金先限に続き、マザーマーケットのNY金もネックラインを上抜いてくると、内外共に強気転換が確認され、上昇相場再開の信頼感は高まる。

6月からのQT開始に伴う「債券需給悪化・金利上昇」圧力はあるものの、金利上昇とQTのダブルパンチによる実体経済への悪影響は避けられず、米マクロ経済指標の堅調の継続性は疑問だ。

米10年債利回りは、6月・7月に年間の高値もしくは安値の節目を付けやすい傾向(6/1付:月間展望参照)があり、今年の場合、米中間選挙もあり、9月以降の利上げが一旦、小幅になる(もしくは見送られる)との思惑が高まると、金利ピークアウトが早ければ6月にも意識されるかもしれない。

インフレは高止まりしており、原油価格の上昇にも陰りが見えない中、金利上昇が続いたとしても、株価の下落を伴う「悪い金利上昇」となる可能性が高く、この場合は、「金利上昇・金相場も上昇」となるだろう。

ロシア・ウクライナの停戦への向けての駆け引きが始まっているが、NATO加盟国のポーランドが、独自にウクライナに平和維持部隊を派遣した場合、停戦は消滅、戦争は新たなステージに向かう。この場合は、金の上値リスクは一気に高まる。(5/27:市場分析レポート参照)

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

白金(Platinum)

～JMリポートでは、ロシア産供給示されず～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

「白金-金」の鞘は、「金売り・白金買い」が継続。ボリンジャーバンドでは、バンドウォークを形成しながら、収れんしている。この保合いが、%Bのクロスと共に、上下いずれかに放れると、順張り型のトレンド発生となる可能性。(右図チャート参照)。

NY市場では、東京に先んじて保合い上放れとなっているが、金と異なり、白金は東京がマザーマーケットの傾向。



1000ドル攻防戦

NY白金は1000ドル台を回復。中国上海市は1日、2カ月に及んだ新型コロナウイルス対策のロックダウン(都市封鎖)を解除した。また、5月の中国の製造業購買担当者景況指数は49.6と事前予想の48.9を上回った。中国国務院が景気促進と雇用安定化に向けた一連の政策措置を発表しており、中国経済の回復期待が高まった。心理的節目の1000ドルを維持できるか否かが焦点。80%の生産シェアを誇る南アの電力不足や、鉱山会社での労使賃金交渉の行方にも注意したい。

CFTC建玉明細(5/31現在)によると大口投機玉は、2,363枚の買い越し。前週(1,485枚の買い越し)から拡大。売り越しは2週間(4/26・5/3の週)だけで、既存レポートで指摘したように、そこが買い場となった格好。(P14チャート参照)。

足元は落ち着きを見せているものの、リースレートが急伸後、高止まりしており、20年のリースレート高騰のときと同じように、今回も価格上昇のきっかけとなる可能性。

CMEのフェドウォッチによると、6、7月のFRBの大幅利上げが織り込まれており、9月以降の見通しと、「利上げ+QT」のダブルパンチに株価が耐えうるか否かが焦点。

1日には、JPモルガン・チェースのジェイミー・ダイモン最高経営責任者(CEO)が「FRBとウクライナ由来で最大級となる可能性があるハリケーンに備えよ。我が社も様々な備えを強化している」と警告を発している。株売り圧力が大きく高まった場合は、「金買い・白金売り」に転じる可能性も。

ゴム(RSS 3号)

～上海ロックダウン解除～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

上海市は、ロックダウンを6月1日から解除。5月31日夕方に中国国務院が包括的な景気刺激策実施を表明、インフラ投資の加速も含まれたこともあり、内外共に底打ち反転となっている。上海株価も堅調。ゴム関連では、自動車購入規制を拡大しないよう指示し、小型エンジン車の購入税を半額するなど盛り込まれた。

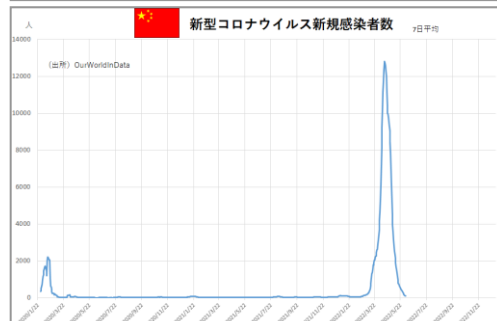
JPXゴムは、円安+株高進行で急伸、中心限月は週末にかけて一段高となり一時、260円台を回復。

現物価格は、天候不順の影響もあつてか集荷が鈍い。

中国のコロナ感染者数は、落ち着きを見せており(右中段参照)、米金利引き上げ+QEに対する過度の悲観も後退している。

半導体不足もあり、自動車販売は不透明感は強いが、株価の大崩れがなければ、相関の強い原油が堅調であり、戻りの限度を試す流れとなりそう。

全国生ゴム営業倉庫在庫は、5月10日現在11,409トン(前旬比204トン減)。5月上旬の入出庫は入庫304トン、出庫508トン。(P13参照)



産地は天候不順

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

穀物(大豆・コーン)

～コーンは小麦に追従安、大豆は高止まり～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

プーチン大統領は30日、トルコのエルドアン大統領と電話会談し、トルコと連携してウクライナの港から穀物輸出を確実にすることに協力する用意があると表明。

これに先立ち、5月26日には、イタリアのドラギ首相とも会談し、ロシアには世界的な食糧危機の解決に大きく貢献する用意があるが、貢献するのは西側諸国が制裁を解除した場合のみだとの考えを示している。停戦協議の行方にも注意。



作付遅れ挽回

コーンが、小麦安に追従しているのに対して、大豆は高止まりとなっている。29日時点のコーン作付け進捗率は86%。平年(87%)とほぼ同じペースで、作付遅れの解消が意識されている。発芽率は61%にとどまり、平年の68%を下回っているが、6月末に発表予定の作付け面積の下方修正懸念が後退している。

一方、大豆は上海で新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2か月以上に渡って続けられた都市封鎖(ロックダウン)が解除と同時に米農務省(USDA)が中国向けの大口成約を発表したことで需要回復期待が高まっている。

米国産大豆の作付率は5月29日時点で66%。前年の83%を下回っているが、平年(67%)と同程度となっているうえ、理想とされる作付終了時期まで、まだ時間を残しているため、生育遅れや単収低下を織り込むには至っていない。

6月に入ると米国産コーンは本格的な生育期に入り、7月終盤までの産地の天候が生育に影響を与える。今年はラニーニャ現象の長期化により北米が高温乾燥の天候となる可能性がある。生育期の米中西部の天候が高温乾燥になれば、作柄悪化となるリスクは残ったまま。北米の夏場天候は平年より高温乾燥になる可能性があり、土壌水分不足による生育不良、作柄悪化には警戒したい。

原油(OIL)

～OPEC増産もロシア生産減を補えず～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

欧州連合(EU)は5月30日、ロシア産石油のEUへの輸入を禁止することを柱とする追加制裁で合意したが、抜け穴だらけの妥協が図られた格好だ。元々ロシア産石油は25%程度で、海上からの流通ルートが多く、しかも半分は製品輸入なので、ロシアがEU外に原油輸出して精製すれば、どこが原産かは判別はつかない。

合意した禁輸措置は海上輸送の石油を対象として、陸上パイプラインで運ばれる石油は例外扱いとなった。反対を表明していたハンガリーの石油供給には、当面影響しない。さらにハンガリーは陸上パイプラインからの供給が途絶した場合に、別の手段で供給を受けられる権利を手にした。

また、石油以上に欧州経済に影響の高い天然ガスの扱いは、今回の制裁案ではノータッチのまま。ロシアは制裁で天然ガスの供給を止め始めているが、EUにとってガス供給停止は耐えられないが、ロシアにとっての打撃は石油の10分の1(輸出額ベース)で、制裁合戦では欧州の方が厳しいとも言える。

ロシア生産減を補えず

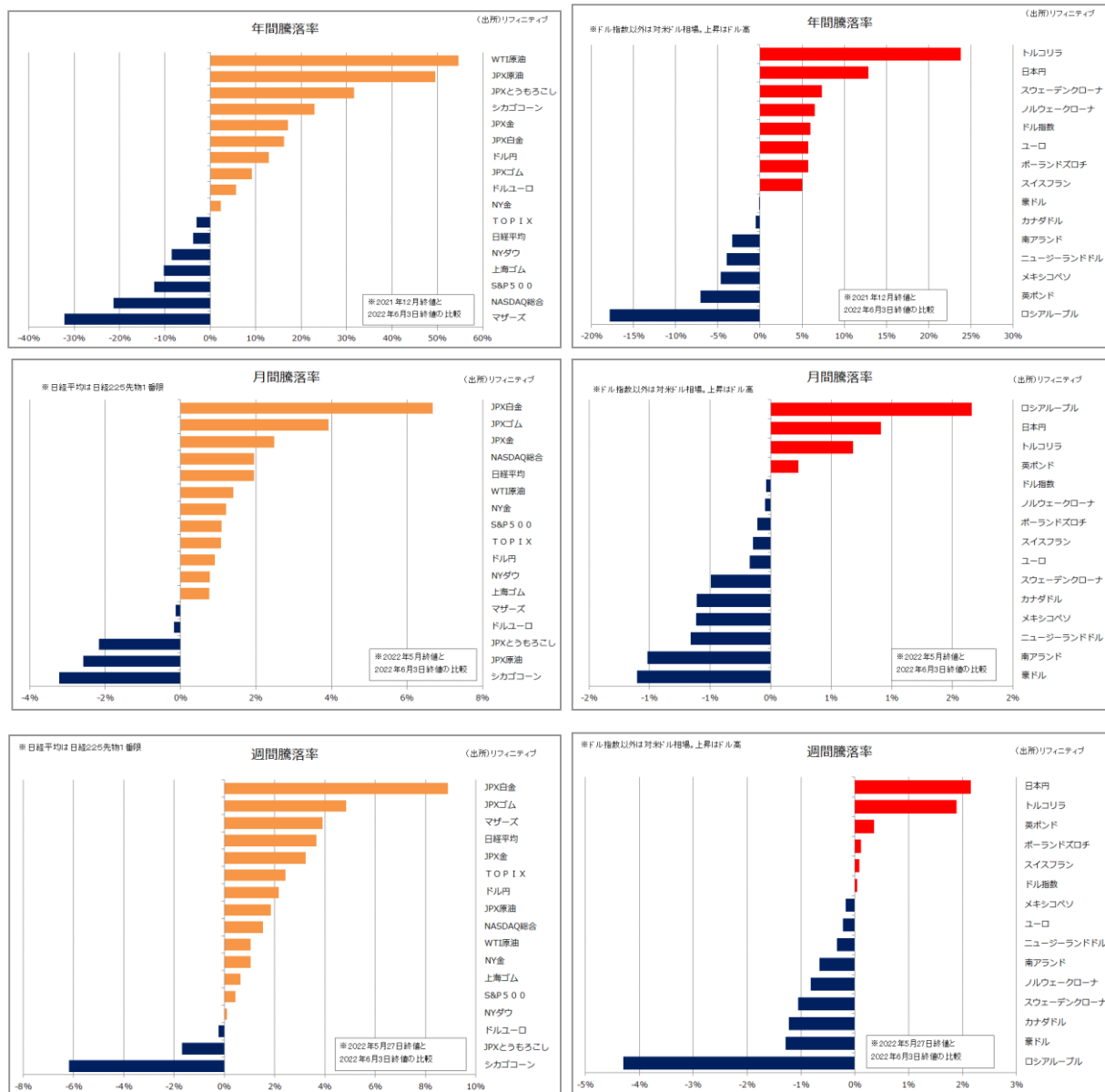
「OPECプラス」は2日、原油を追加増産することで合意した。声明で「9月の生産調整を前倒しし、7、8月に配分し直す」とした。7～9月の3ヶ月間にわたり毎月43万2千バレルずつの予定だった減産縮小(事実上の増産)を、7、8月の64万8000バレルずつに置き換えることになる。(P13下段左右図参照)

ただし、追加増産が決まったものの、ウクライナ侵攻による制裁で落ち込んだロシアの生産減を補うには十分ではない。国際エネルギー機関(IEA)によると、4月のロシアの生産量は計画に対し日量134万バレルの未達だった。アフリカ産油国の生産目標割れが続いている。大幅な増産が可能なのはサウジアラビアとアラブ首長国連邦の2国となっている中、バイデン政権になって以降、サウジと米国の関係は悪化しており、増産圧力をかけてくる米国には増産を急ぐ姿勢をみせつつ、身内のロシアには実質は変わらないと説明できる双方に配慮した内容。次回協議は6月30日。

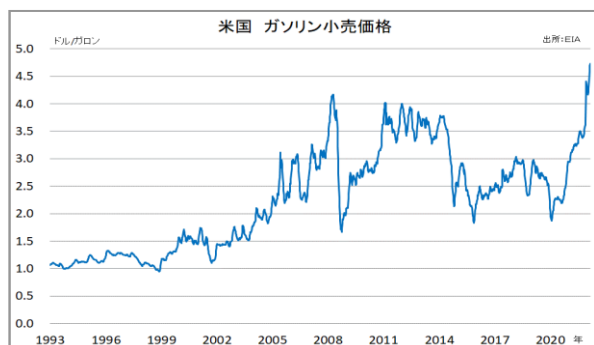
CFTC建玉明細(P15参照)によると、大口投機玉の買い越しは、必ずしも過熱感のある水準ではなく、投機的な上昇と言うよりも、需給タイト感を背景にしたトレンド形成と考えた方がよい。

NY原油は三角保合いを上放れ、V=123.16ドル、E=129.47ドルなどを試す流れ。

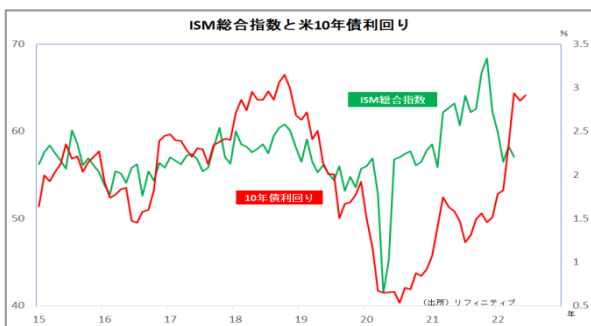
【騰落率(年間・月間・週間)】



【米ガソリン小売価格】



【米ISM】

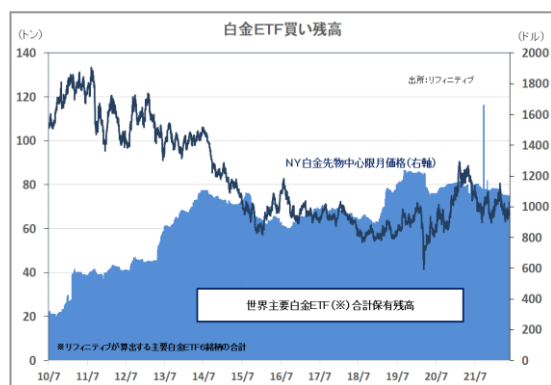


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金・白金ETF】

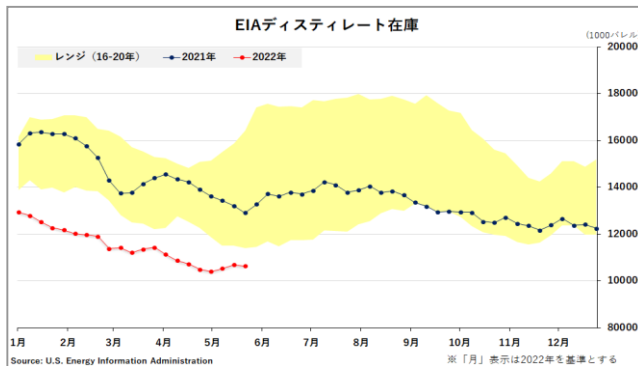
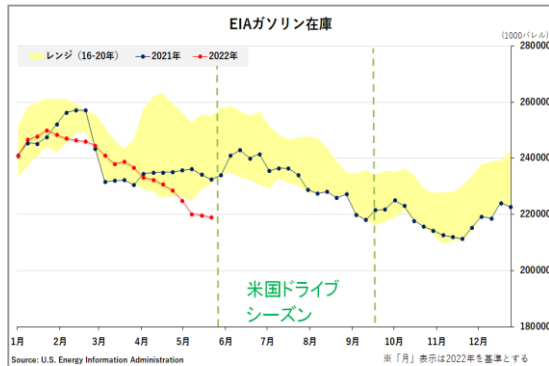
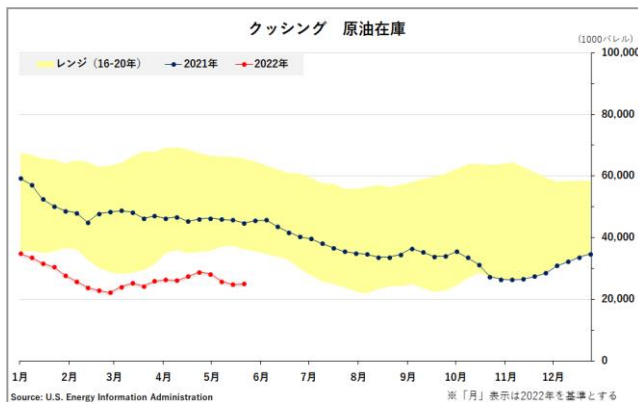
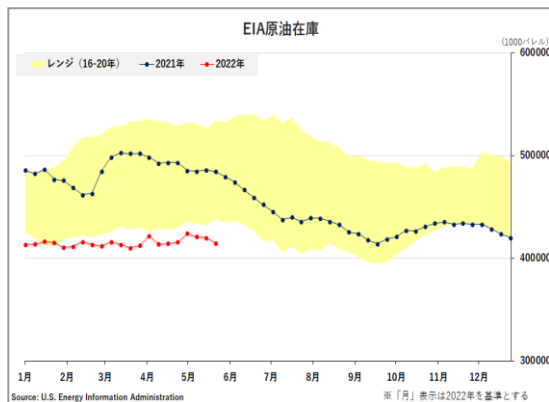


日付	金保有高(トン)	前営業日比
2022/6/3	1066.04	±0
2022/6/2	1066.04	-1.16
2022/6/1	1067.20	-1.16
2022/5/31	1068.36	-1.45
2022/5/27	1069.81	±0
2022/5/26	1069.81	±0
2022/5/25	1069.81	+1.74



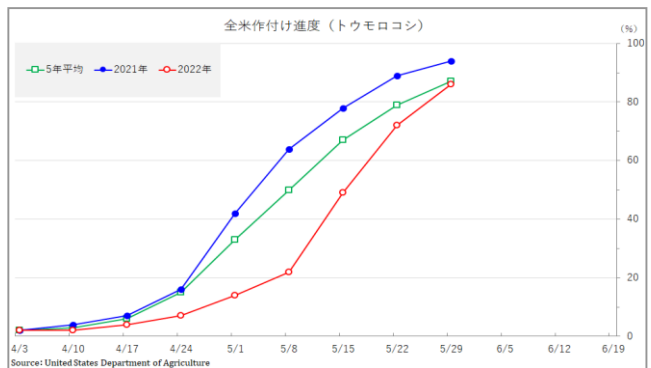
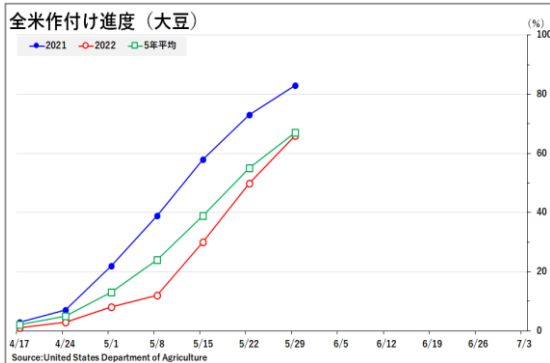
日付	白金保有高(キログラム)	前営業日比
2022/6/3	74,938.19	±0
2022/6/2	74,938.19	-0.09
2022/6/1	74,938.28	-0.16
2022/5/31	74,938.44	-0.56
2022/5/27	74,939.00	-0.09
2022/5/26	74,939.09	-0.16
2022/5/25	74,939.25	+89.42

【EIA在庫】

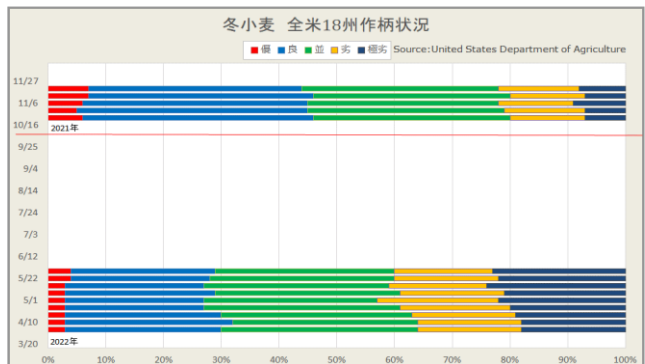
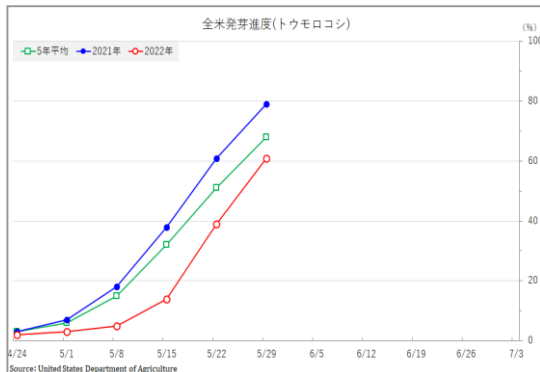


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

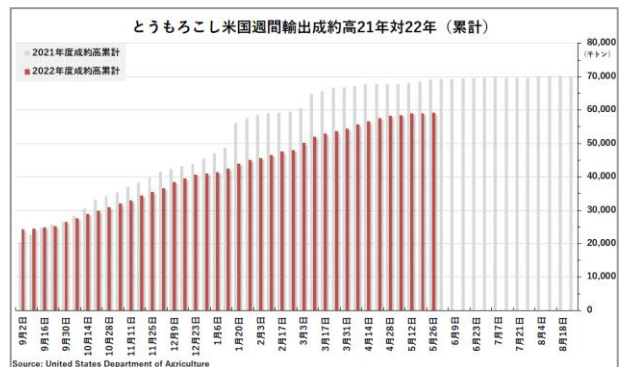
【USDA生育進捗(大豆・コーン)】



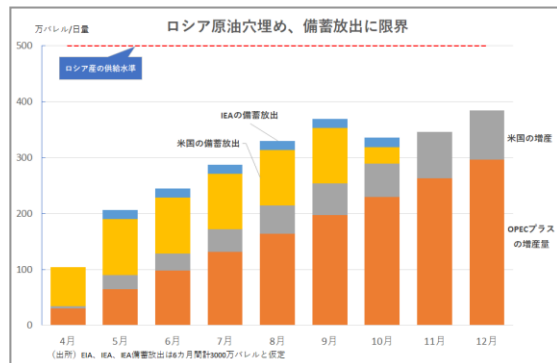
【USDA作柄(冬小麦)】



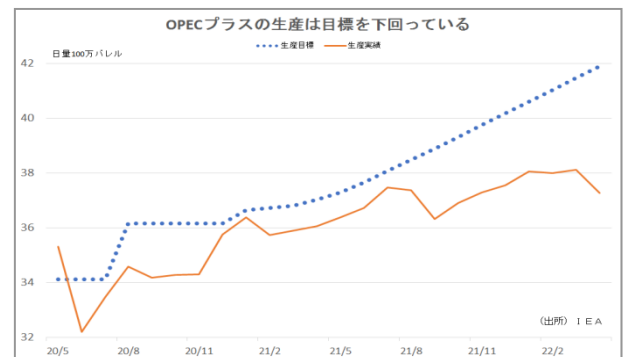
【週間輸出成約高(大豆・コーン)】



【ロシア産の穴埋め困難】

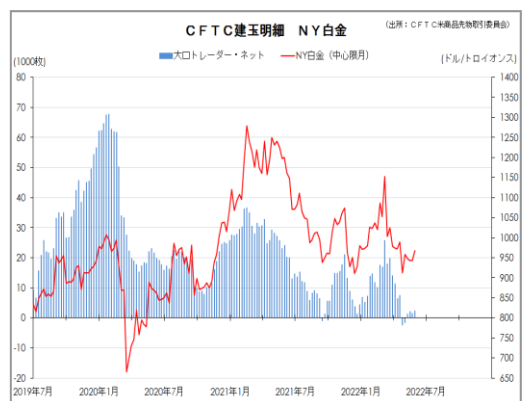
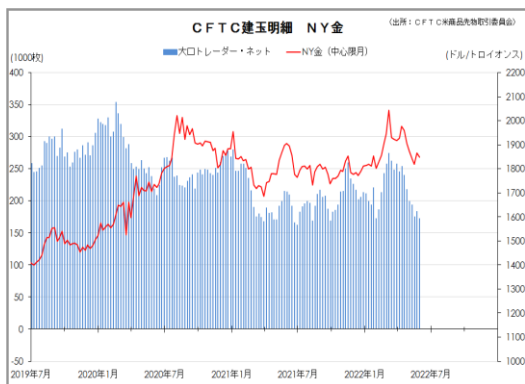
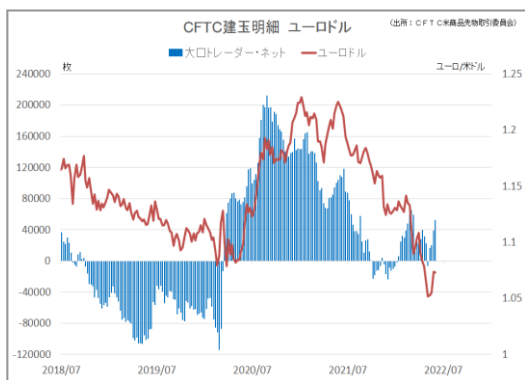
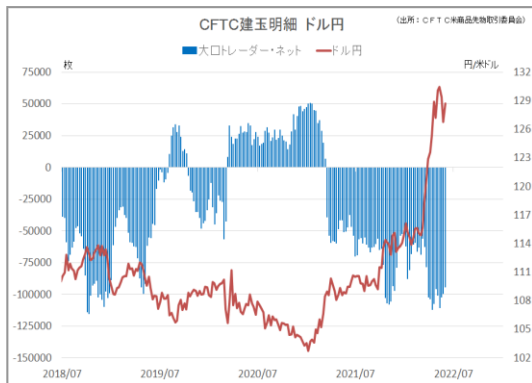


【OPEC生産量】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【CFTC建玉明細】



ドル円				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/3	18,585	119,379	-100,794	130.1
2022/5/10	11,196	121,650	-110,454	130.43
2022/5/17	12,113	114,422	-102,309	129.39
2022/5/24	16,567	116,011	-99,444	126.8
2022/5/31	15,201	109,640	-94,439	128.68
前週比	-1,366	-6,371	5,005	1.88

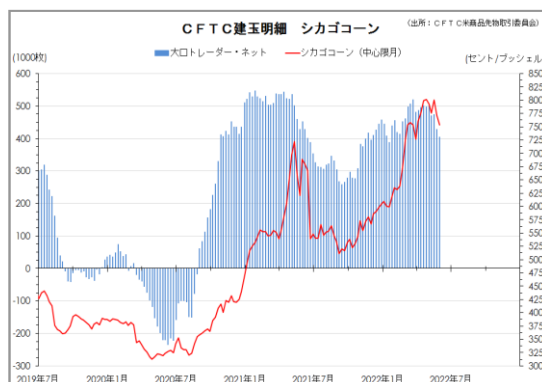
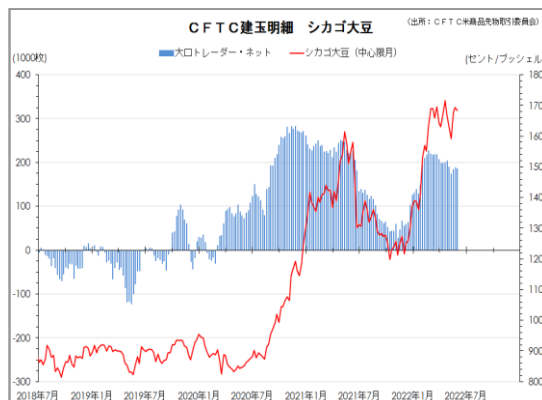
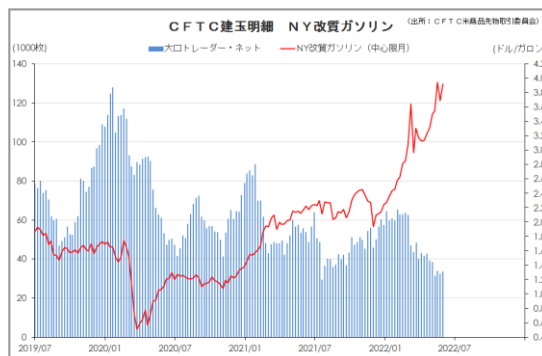
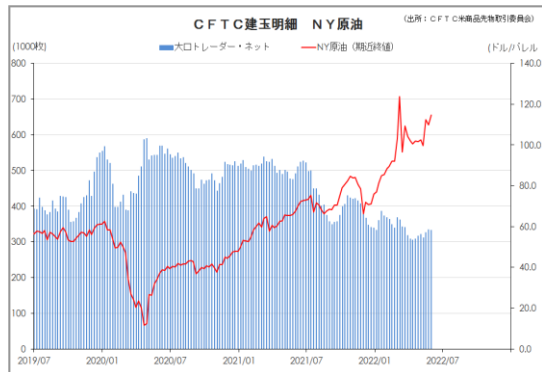
ユーロドル				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/3	208,449	214,827	-6,378	1.0520
2022/5/10	228,230	211,701	16,529	1.0527
2022/5/17	230,770	210,431	20,339	1.0547
2022/5/24	237,072	198,142	38,930	1.0734
2022/5/31	236,553	184,281	52,272	1.0733
前週比	-519	-13,861	13,342	-0.0001

NY金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/3	293,439	94,271	199,168	1870.6
2022/5/10	288,947	95,632	193,315	1841
2022/5/17	283,011	107,651	175,360	1818.9
2022/5/24	282,202	98,389	183,813	1865.4
2022/5/31	269,459	96,870	172,589	1848.4
前週比	-12,743	-1,519	-11,224	-17.0

NY白金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/3	29,516	31,057	-1,541	958.6
2022/5/10	28,774	27,411	1,363	947.2
2022/5/17	28,253	26,050	2,203	943.4
2022/5/24	26,052	24,567	1,485	942.9
2022/5/31	27,226	24,863	2,363	968.3
前週比	1,174	296	878	25.4

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【CFTC建玉明細】



NY原油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/3	419,692	97,991	321,701	102.41
2022/5/10	415,170	104,367	310,803	99.76
2022/5/17	416,190	90,553	325,637	112.4
2022/5/24	422,541	87,780	334,761	109.77
2022/5/31	421,683	88,707	332,976	114.67
前週比	-858	927	-1,785	4.90

NY改質ガソリン				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/3	79,017	40,636	38,381	3.5012
2022/5/10	73,929	42,551	31,378	3.5415
2022/5/17	75,744	41,946	33,798	3.9417
2022/5/24	72,517	40,092	32,425	3.6897
2022/5/31	76,089	42,399	33,690	3.9162
前週比	3,572	2,307	1,265	0.2265

シカゴ大豆				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/3	239,355	48,953	190,402	1630.50
2022/5/10	225,260	50,652	174,608	1592.25
2022/5/17	231,911	48,264	183,647	1678.00
2022/5/24	236,164	47,796	188,368	1693.00
2022/5/31	237,836	51,758	186,078	1683.25
前週比	1,672	3,962	-2,290	-9.75

シカゴコーン				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/5/3	589,856	87,991	501,865	793.00
2022/5/10	573,327	102,419	470,908	775.25
2022/5/17	589,352	115,609	473,743	800.75
2022/5/24	563,850	136,002	427,848	771.75
2022/5/31	551,849	147,649	404,200	753.50
前週比	-12,001	11,647	-23,648	-18.25

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

当社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

＜商号等＞ 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）
関東財務局長（金商）第131号 金融商品取引業者 商品先物取引業者
＜加入協会＞ 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般財団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、当社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。